

環境にやさしい分別を!



しっかり分別しよう 可燃ごみ

発行

羊蹄山麓地域廃棄物
広域処理連絡協議会

羊蹄山麓7カ町村は、平成27年3月から可燃ごみを固形燃料に変えている全国的にも珍しい地域です。
焼却から固形燃料へと処理方法を変えてから9年が経過した現在、いま一度可燃ごみの出し方を見直してみましょう。



可燃ごみから作った固形燃料

歴史

この地域の可燃ごみ処理は焼却方式でしたが、焼却施設を使える時期は平成27年3月までだったので、協議の結果、「燃やさず、固形燃料にする」方式になりました。

固形燃料はRDF (Refuse Derived Fuel=一般廃棄物由来燃料)とも呼ばれ、道内の製紙工場などでボイラーの燃料として使用されています。

検査

年一回、可燃ごみの袋からサンプルを抽出し、中のごみを種類ごとに分類。それぞれの重さの比率から、分別が正しくされているかチェックしています。

直近の検査結果では、**40%以上が可燃ごみ以外のごみ**でした。(裏面参照)

より一層の正しい分別を心がけましょう。

塩分

固形燃料の品質を決める上で重要な成分が、**塩分(塩素)**です。塩分濃度が高いと、ボイラーを痛めてしまいます。

生ごみやプラスチック製品が特に塩分濃度が高く、固形燃料の品質を大幅に下げてしまうのです。

処理業者の皆さんが頑張って手作業で選別していますが、まずは皆さんのしっかりとした分別が、良質な燃料の作成につながります。

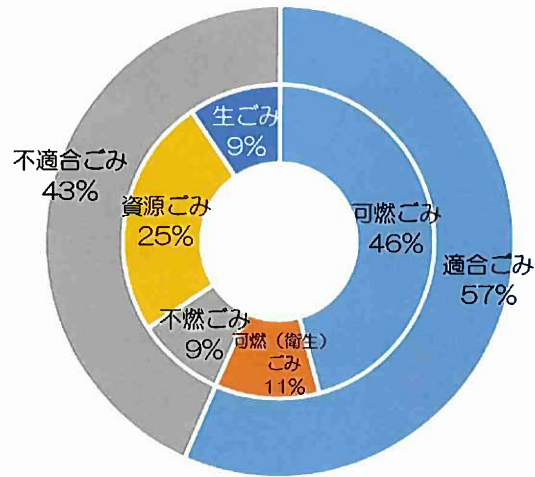
裏面に可燃ごみの中身の検査結果を掲載しています

可燃ごみの中身と今後に向けて

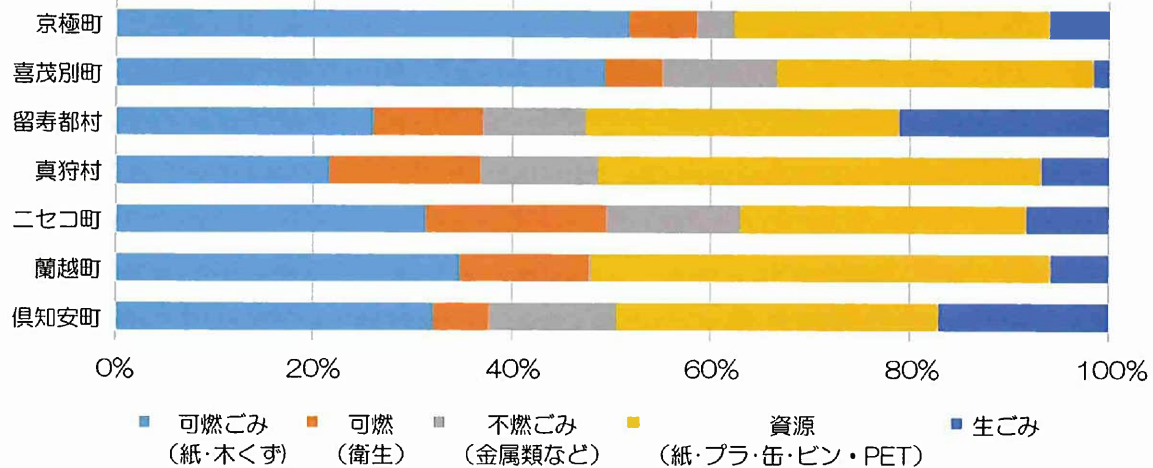
可燃ごみの中身を見てみよう

ごみがしっかりと分別されているかを確認するために、年に一回、処理先の施設で可燃ごみの袋を開いて中身を検査しています。

もやせるごみ袋の展開検査結果



町村別 展開検査結果



令和5年度羊蹄山麓地域廃棄物可燃ごみ質展開検査分析結果より

結果をふまえて

皆さまの分別へのご協力により、適合ごみ（可燃ごみ＋衛生ごみ）の割合が50%を超えました。

しかし、まだ可燃ごみ以外のごみが40%以上入っています。

紙製容器包装や書類などの紙ごみは、それぞれリサイクルしていますので、「燃えるから、可燃ごみ」と安易に入れず、分別しましょう。

可燃ごみに限らず、ごみを捨てるほんの一瞬「これってこのごみ袋に入れていいのかな？」と考えてみましょう。

分別で迷ったら、それぞれの町村の担当者にお気軽にお尋ねください。